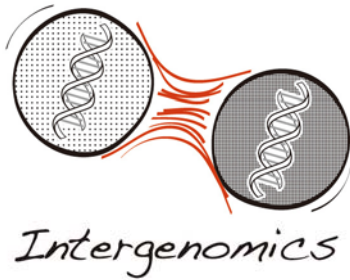


## 第 42 回



# インターゲノミクス セミナー

神戸大学大学院・農学研究科  
インターゲノミクス研究会 主催  
(若手研究者育成支援経費)

日時：10月27日（金）15時10分より 場所：農学部 B204

## 「ウイルス四方山：我が道を行くウイルス達」 —悪いヤツ？良いヤツ？どうでも良いヤツ？—

15:10 はじめに

15:15 **Borna disease virus vector for gene delivery:**

**current status and future potential**

小松 弓子 先生（京都大学ウイルス・再生医科学研究所）

要旨内容：Borna disease virus (BoDV) is a nonsegmented, negative-strand RNA virus that causes persistent infection in various vertebrates. Several features of BoDV, including its ability to cause persistent, intranuclear infection without causing cytopathic effects, make it attractive as a gene transfer vehicle. To exploit unique characteristics of BoDV for gene therapy, we and others have previously developed a viral vector system based on BoDV. BoDV vector efficiently transduces human stem cells without affecting their differentiation potential, and offers a promising gene delivery platform for long-term transgene expression. In this seminar, I will introduce characteristics of BoDV vector, and discuss current challenges associated with BoDV vector production and our recent work to overcome these challenges. Lastly, I will discuss future perspectives of BoDV vector for downstream applications in gene therapy and cell based therapy.

16:15 **危険なウイルスをプロファイリングする：殺人ウイルスの条件**

海老原 秀喜 先生（米・メイヨークリニック・Department of Molecular Medicine）

要旨内容：ウイルス (virus) は、ラテン語の“病気を起こす毒”という言葉に由来しており、様々なウイルスがヒト、動物、植物等に感染し、病気を起こすことが知られている。しかし、ウイルスにとっての感染・増殖の意義（ウイルスに意義もへったくれも無いのだが）とは、自然界で宿主の細胞機構を効率良く利用し、自らの子孫（コピー）を作り、それらを次の宿主に伝播することである。従って、十分な子孫ウイルスを他に伝播する前に宿主に重篤な病気を起こし、急激にその宿主を死に至らしめることは、ウイルスの利に叶っているとは言えない。しかし、20世紀後半から人類の前に姿を現したエマージングウイルスの中には、極めて重篤な感染症をヒトに引き起こすやつらが存在する。本講演では、高い致死率を伴う出血熱を引き起こすウイルス、エボラウイルス等が、なぜヒトにそこまで高い病原性（病気を惹起する能力）を有するのかを、分子ウイルス学と宿主-ウイルス間の相互作用の見地から論じたい。

17:15～ 総合討論

世話人：松尾 栄子

お問い合わせ 藤本 龍（農学研究科 資源生命科学専攻 園芸植物繁殖学研究分野）  
TEL: 078-803-6581 E-mail: leo@people.kobe-u.ac.jp